

## コラム② 市町村の担当者に水系協議会に加わってもらうメリット

広島県のカワウ対策協議会には、多くの市町村の担当者が参加しています。広島県の管理計画では、県内を4つの管理ユニットに分けてそれぞれの地域ごとに目標や実施する対策について記載しています（図 13）。その中の東部管理ユニットでは、島嶼部に多数のコロニーが存在し、県内におけるカワウの供給源として捉えられています。そこで、広島県の第二種特定鳥獣（カワウ）管理計画（平成 29 年 4 月策定）における東部管理ユニットの管理方針として、島嶼部のコロニーにおける繁殖抑制を実施し、個体数増加を抑制していく方針が立てられました。具体的には、繁殖抑制ができないコロニーにはビニル紐を張って追い出し、繁殖抑制がしやすいコロニーに巣を集めて、そこで、ドライアイスによる繁殖抑制を実施していく計画です。この取り組みにおいて、力を発揮したのが市町です。

対策の立ち上げには都道府県の力が不可欠ですが、方針や方法が固まってくれば、現地での対策は市町村の役割が重要です。広島県は、対策協議会を管理ユニットごとに開催しているほか、市町村の担当者と打ち合わせを重ねながら、効率よくねぐらの分布をコントロールし、繁殖抑制の効果を高めるプランニングをしています。市町村の中には、ねぐらの分布管理や繁殖抑制などの個体数調整についてのビジョンを持てる担当者が現れてきています。

管理計画のメリット（東部管理ユニットの事例）

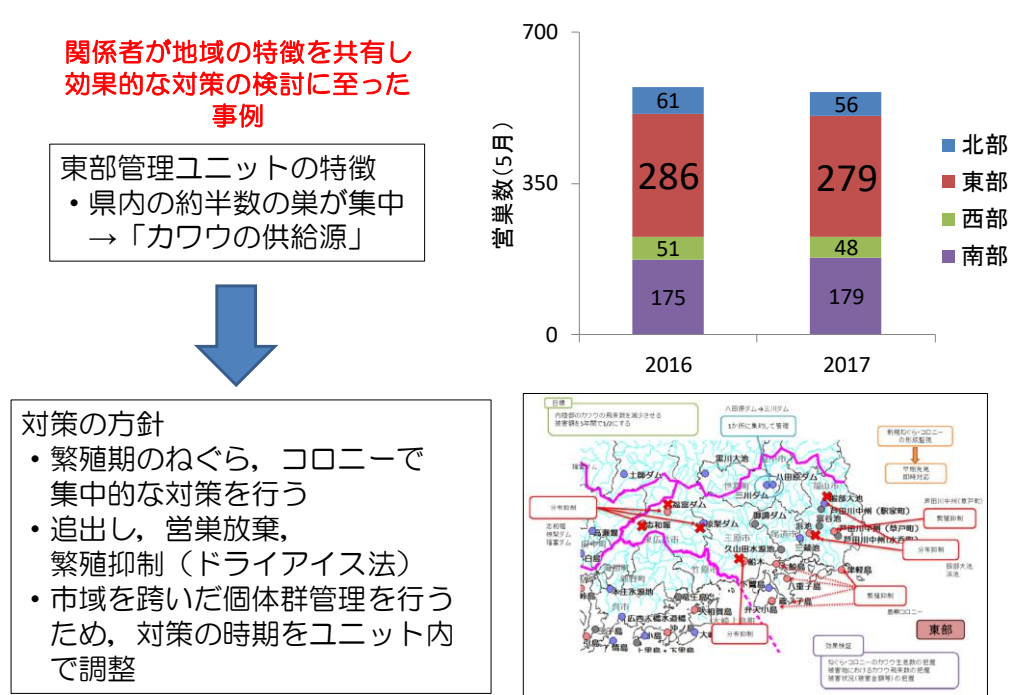


図 13. 広島県の東部管理ユニットにおける対策検討事例（広島県提供）

このような市町では、より現場のニーズに合った年次計画の作成ができるほか、状況の変化に素早く対応できるなど、PDCA サイクルが適切に機能するようになると期待されます（図 14）。

この際、スケジュール表を作成することで、対策を個別に考えるのではなく、各対策の効果が高くなるよう段取りを整理することができます（図 15）。

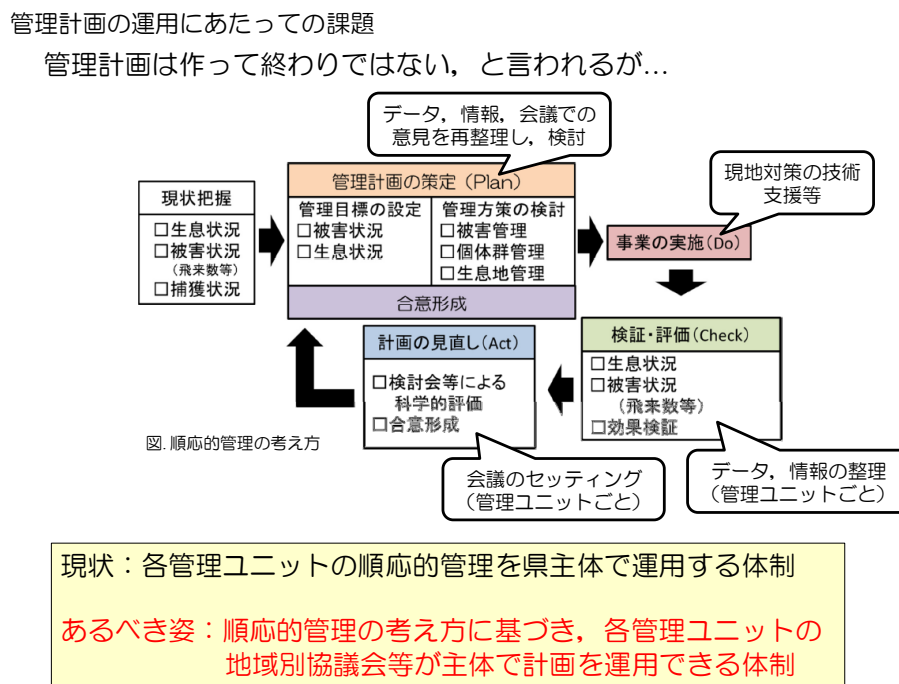


図 14. 広島県内で管理ユニットごとに設けられている地域別協議会（水系協議会）の順応的管理の模式図と課題の整理（広島県提供）

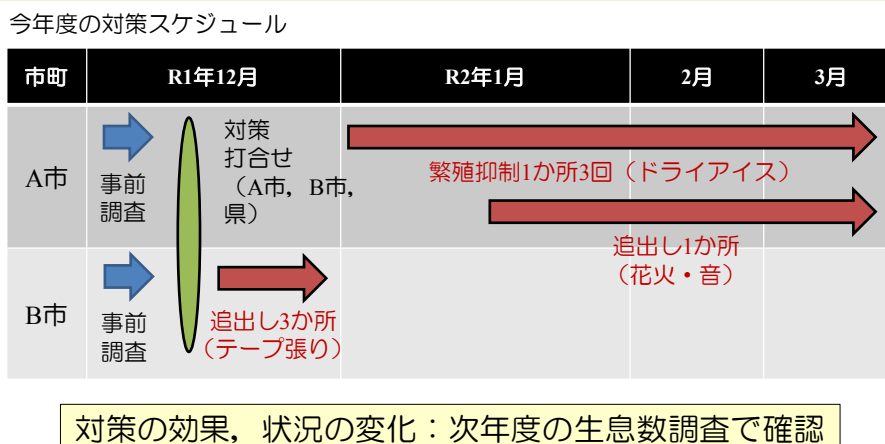


図 15. 広島県内における対策スケジュール（広島県提供）